

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

植物

# タイワンタケクマバチ

竹に穴を開けて巣を作る大きなハチです。在来種のクマバチへの影響のほか、竹材の利用に影響を与えるおそれもあります。

## ■ 原産地

中国、台湾。

## ■ 形態と生態

在来種のクマバチ（キムネクマバチ）に比べて細い体形で、体長は2cmを超える。しばしば飛んだまま空中で停止するため、観察しやすい。フジ、クロガネモチ、クチナシなど、さまざまな花の花粉を利用する。竹に穴を開けて巣を作る。

## ■ 移入経路と現状

2007年に、愛知県豊田市と岐阜県安八郡で初めて侵入が報告された。以後、急速に分布域を拡大している。

## ■ 影響

在来種のクマバチと花の花粉や蜜をめぐる競合が起きる可能性がある。また、竹に営巣するため、農具として竹を利用する農業、建築業にも影響が予想される。

このほか、本種に付着して移入してきたダニが、在来ダニを遺伝的にかく乱する可能性も指摘されている。

## ■ 類似種との識別点

在来種のクマバチの胸には黄色い毛が密生して、遠くからでもはっきりと黄色に見える（種名「キムネクマバチ」の由来）のに対して、タイワンタケクマバチの胸部の毛は目立たず、全身が黒っぽく見える。

## ■ 対策

巣を作るのに古竹を好むことから、立枯れの竹を放置しない、手入れしていない竹林は伐採するなどの対策が考えられる。

目立つ虫なので、早期発見に向けた情報発信、啓発が必要である。

ハチ目ミツバチ科

学名：*Xylocopa tranquebarorum*



昆虫類

## ■ 選定状況

条例 公表	特定 外来	要 注意	日本 ワースト 100	世界 ワースト 100

## ■ 県内の確認状況



識別ポイント：  
全身が黒っぽい



胸部が黄色い



参考：在来種のキムネクマバチ

(このページの写真提供：間野隆裕氏)